

「討論が上手な人と下手な人は先生から見て何が違うので
しょうか？」

平成 29 年 8 月 22 日

●高麗博輝さんからの質問

西田先生はなぜ討論で相手を切るのが上手いんですか？討論が上手な人と下手な人は、先生から見て何が違うのでしょうか。上手くなるにはどうしたらいいのでしょうか。

●西田昌司の答え

議論の際に相手が a、私が b の意見を持っているとしましょう。相手が a という意見を言う背景には A という前提があるはずですが、その A が正しければいいのですが、それが間違っていたとすると a の意見は論ずるに値しないわけです。その場合には A の反証を挙げていけば、相手はそのうちに反論もできなくなるのです。

しかし、困ったことにそうやってこちらが誤りを指摘したところで全く理解してもらえない相手も結構いるのです。私には「お前はすでに死んでいる」としか思えませんし、傍から見ると私の方が議論に勝っているのが明白であっても、相手は負けていることにも気付きません。こうなると、いくら議論を重ねたところでいつまで経っても話が収束しません。

付ける薬のない論客には、誰も勝てないということでしょう。

反訳：ウッキーさん

Copyright : 週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>